

やまなし

第91号
2017年
10月

衛環研だより

発行：山梨県衛生環境研究所 甲府市富士見一丁目 7-31 TEL 055-253-6721
URL：<http://www.pref.yamanashi.jp/eikanken/index.html>

平成 30 年度からスタートする調査研究課題の紹介

平成 29 年度第 2 回課題評価委員会を 9 月 13 日に開催しました。
事前評価の対象になった課題は次のとおりです。

No.	調査研究課題
1	石和・春日居温泉地域の温泉資源変化に関する研究 (定時定点調査結果等の解析)
2	県内のスギ、ヒノキ、イネ科及びブタクサ花粉の飛散状況調査
3	インフルエンザウイルスにおける薬剤耐性遺伝子の検索
4	外来種珪藻 <i>Cymbella janischii</i> の分布実態調査

調査研究計画評価書

No.1

評価実施年月日	平成 29 年 9 月 13 日	
調査研究課題 (部・科名)	石和・春日居温泉地域の温泉資源変化状況に関する研究 (定時定点調査結果等の解析) (生活科学部 用水・生活科)	
調査研究期間	平成 30年度 (1カ年)	
調査研究概要	<p>山梨県内の温泉については毎年定時定点調査として、調査が行われている。しかし、これらの調査結果の解析は断片的かつ短期的な報告に留まっている。</p> <p>この研究では、石和・春日居温泉地域を対象に、長期的、地域的な視点を軸に、熱量の変化やその変化速度、安定状況を泉温、湧出量、成分変化等を元に、温泉を資源と捉え、解析を試みる。</p> <p>これにより、保護地域における規制の強化、現状維持、緩和といった規制の見直しや、温泉行政の施策策定への参考資料とする。</p>	
評価項目	評価点	コメント(平均評価点)
研究の必要性	5 4 3 2 1	4.8
研究内容の妥当性	5 4 3 2 1	4.4
研究内容に新規性・独創性	5 4 3 2 1	3.6
研究資源の妥当性	5 4 3 2 1	4.4
目的達成の可能性	5 4 3 2 1	4.4
期待される研究成果	5 4 3 2 1	4.2
総合評価点	4.3	
	<p>総合コメント</p> <p>過去のデータも活用しつつ行政のエビデンスを作ろうとの姿勢は評価します。本研究は温泉資源の保全に加えて、観光資源の将来を考えるうえでも重要だと考えます。</p> <p>現状の理解と課題の明確化を行った先に、これからどうすればよいかについての方向性(体制づくりも含む)が提案されることを期待しています。</p>	
所の対応	<p>これまでの定時定点調査の結果も含めてこの地域の温泉資源の状況を把握し、その変化状況を解析することで、本地域の温泉資源の保全や有効的な活用に向けたデータを提供します。また、得られたデータを基に将来の課題を把握し、今後の取り組みについて検討したいと考えます。</p>	

調査研究計画評価書

No.2

評価実施年月日	平成 29 年 9 月 13 日					
調査研究課題 (部・科名)	県内のスギ、ヒノキ、イネ科及びブタクサ花粉の飛散状況調査 (微生物部・衛生動物科)					
調査研究期間	平成 30年度 ~ 31年度 (2カ年)					
調査研究概要	<p>当所では毎年春季の花粉症の原因となるスギ、ヒノキ花粉を観測しホームページで情報を提供しているが、2014~2015年にスギ、ヒノキ花粉に加え花粉アレルギーの原因植物の花粉を調査したところ多くの木本植物、草本植物の花粉が観測された。草本植物中、イネ科花粉は通年、秋の花粉症の原因として代表的なブタクサ花粉は8~10月に観測されたことから、スギ、ヒノキ花粉に併せてこれらの花粉の観測を行い、飛散状況を解析し花粉症対策の資料として活用したい。</p>					
評価項目	評価点				コメント(平均評価点)	
研究の必要性	5	4	3	2	1	4.8
研究内容の妥当性	5	4	3	2	1	4.0
研究内容に新規性・独創性	5	4	3	2	1	4.0
研究資源の妥当性	5	4	3	2	1	4.6
目的達成の可能性	5	4	3	2	1	4.4
期待される研究成果	5	4	3	2	1	4.8
総合評価点	4.4					
	<p>総合コメント</p> <p>いわゆる“花粉症”に悩まされている人は多く、その点から本研究は県民の利益に直結した研究だと評価します。</p> <p>しかし、実際に花粉をカウントすることは労力も多く、多地点でのカウントを基本とすれば、タイムリーな予防情報の提供に直結するかが懸念されます。</p> <p>今回の限定された地域における植物花粉のカウントと周辺の状況調査を一つのケーススタディーとし、植物の開花時期と気象との関係、植物の分布域と風との関係などの把握から、直接計測せずとも、その影響を受けられる地域の花粉の飛散が予測できるような手法の開発(AIの活用なども含む)につなげることを強く期待します。</p>					
所の対応	<p>イネ科・ブタクサ花粉の観測と併せて地域の植生把握や気象データとの関係を考察し、直接観測しなくても花粉飛散の予測(例:開花時の気温と飛散開始の関係等)ができるか検討をする予定です。また、得られた情報を広く県民に還元し、注意喚起していきたいと考えます。</p>					

調査研究計画評価書

No.3

評価実施年月日	平成 29 年 9 月 13 日					
調査研究課題 (部・科名)	インフルエンザウイルスにおける薬剤耐性遺伝子の検索 (微生物部・ウイルス科)					
調査研究期間	平成 30年度 ~ 31年度 (2 カ年)					
調査研究概要	<p>ウイルスは遺伝子変異を起こしやすく、医療現場で広く使用されている抗ウイルス薬に耐性を示すウイルスの出現は常に危惧されている。</p> <p>本研究は、定点医療機関から搬入されるインフルエンザ疑い患者の検体からインフルエンザウイルスを分離し、遺伝子解析を行うことで抗インフルエンザ薬耐性のインフルエンザウイルスの出現を早期に探知し、関係機関に薬剤の適正使用の情報を提供するとともに蔓延を防止する。</p>					
評価項目	評価点				コメント(平均評価点)	
研究の必要性	5	4	3	2	1	5.0
研究内容の妥当性	5	4	3	2	1	4.6
研究内容に新規性・独創性	5	4	3	2	1	4.0
研究資源の妥当性	5	4	3	2	1	4.6
目的達成の可能性	5	4	3	2	1	4.2
期待される研究成果	5	4	3	2	1	4.4
総合評価点	4.5					
	<p>総合コメント</p> <p>薬剤耐性ウイルスに関する情報は、治療薬の選択や医療費の経済性の改善など、医療現場において非常に重要です。</p> <p>しかしそれ故に、県内にとどまらず、周辺の自治体の状況を含めたより広い範囲での状況の提供が、より効果的と思われます。</p> <p>リアルタイムな情報となりにくい現状の改良も含め、他の行政機関との連携を強めて、よりパワフルな研究としていただくことを期待します。</p>					
所の対応	<p>可能な限りリアルタイムな情報提供を行うとともに、インフルエンザ薬剤耐性状況については、県の感染症情報センターや感染症ネットワークを通じて関係機関(保健所、医師会、医療機関等)に提供することで、県民の健康増進に役立つように努めます。また、他の自治体の状況についても併せて情報提供を行います。</p>					

調査研究計画評価書

No.4

評価実施年月日	平成 29 年 9 月 13 日	
調査研究課題 (部・科名)	外来種珪藻 <i>Cymbella janischii</i> の分布実態調査 (環境科学部)	
調査研究期間	平成 30年度 ~ 31年度 (2 力年)	
調査研究概要	<p>外来種の大型珪藻である <i>Cymbella janischii</i> は、河川景観を損ねるのみならず、主な県内魚業権魚種の一つであるアユの定着に悪影響を及ぼす可能性が水産技術センターにより示唆されている。</p> <p>本研究は同センターの要望を受けて、同種の県内河川での存在状況を明らかにし、健全な水産業の維持に必要な資料を提供することを目的とする。</p> <p>併せて調査地点において、底生動物による水生生物による水質評価調査も実施し、県内河川の水環境を生物的な視点から評価を行う。</p> <p>これにより、アユの漁場保護のための資料が得られ、侵入が確認されない河川の保全の呼びかけ、他の河川への非意図的拡散防止の呼びかけなどが実施可能となる。また水生生物調査結果は、市民団体や学生が調査を実施する際の参考資料となる。</p>	
評価項目	評価点	コメント(平均評価点)
研究の必要性	5 4 3 2 1	4.8
研究内容の妥当性	5 4 3 2 1	4.6
研究内容に新規性・独創性	5 4 3 2 1	4.4
研究資源の妥当性	5 4 3 2 1	4.6
目的達成の可能性	5 4 3 2 1	4.4
期待される研究成果	5 4 3 2 1	4.2
総合評価点	4.5	
	<p>総合コメント</p> <p>本研究で取り上げた研究課題は、県内の河川景観や水産分野に及ぼす影響が大きく、調査研究の必要性が高いものです。これまで地味に続けてきた本研究所の珪藻研究の実績が、県内の他の研究機関からも評価されていることを高く評価したいと思います。</p> <p>この珪藻が繁殖するようになったメカニズムの解明には時間を要すると考えられますので、原因を探る調査研究と並行して、より拡大しないための対策方法に関する県民への情報提供も重要と思われます。外来生物の問題の大きさを示す良い材料となると考えられ、環境教育的な側面での啓発活動も期待します。</p>	
所の対応	<p>水産技術センターと協力して研究を進め、外来種の侵入河川を中心に繁殖条件等の解明に努めます。拡大防止対策については、得られた情報を開示することで注意喚起するとともに、本研究を一事例として、外来種問題や生物多様性維持の重要性の啓発に努めます。</p>	